



## 絵本で 平和を願いを伝えよう 仲間が増えた しんかんフェスタ

絵本の読み聞かせをする あおきひろえさん



絵本作家のあおきひろえさんを招き、4月23日に、「しんかんフェスタ」を開催しました。先輩のワザ連続講座の第2回の取り組みで、大阪市教育青年部が中心となって運営を進め、第1部は「学び屋台」、第2部はあおきさんの講演が行われました。その後、大教済の抽選会が行われ、40人以上の参加、組合加入もあり、大いに盛り上がりました。

冒頭のあいさつで、宮城委員長は、「コロナ禍での子どもの学び、遊ぶ権利が失われていることや、学力テストやチャレンジテストなど、子どもたちの学びを数値化する新自由主義的な教育を進める維新政治は許せない」と強調しました。続けて、青年からは、すきま時間にできる学級ゲームの紹介や、先輩からの一言があり、「しんどい状況を抱えている青年はたくさんいる。助けとなった組合の力は大きい」と組合と自分とのつながりを語りました。

「学び屋台」では、折り紙や工作、学級通信などのブースが設けられ、明日からの学級づくりを活用できる教材やアイデアが用意され、参加した青年から笑顔が見られました。

あおきさんは、初めに「かみなりさんの絵本を読み聞かせし、内容について、実にはかばかしいと思うが、子どもたちに人気がある」と語り、面白いこと、フツツと笑って笑顔になることがいと語り



「学び屋台」教材



ました。続けて、自身の子どもの時代の出来事を描いた「夏平くん」や「あおびょうたん」などを読み聞かせしました。そして、あおきさんは、自分が背が小さいことがコンプレックスだったと話しながら、そんなことも「なんでもない」と笑いに変えられる力が大切だと語りました。その後、落語「ウナギや」のライブペインティングや「ソフトリームとみんなのえがお」の読み聞かせでは、おいしいものを食べたとき、大切な誰かに食べさせてあげたいと

最後に、ご自身の反戦や原発ゼロの活動や、子どもたちの工作教室「空色画房」について語りました。特に、工作教室での活動については、どんどん自由に想像しながら、作り上げていく子どもの想像力の豊かさに感動し、自分から何かを創り出す経験を子ども

どもの頃から積みあげることで、大人になって自分で考えて行動できる人になってほしいと語りました。参加者からは、「自分が子どもたちに伝えたいことを絵本から考えるようにしてみたい」「自分の頭で考え行動できるの大切さを感じた。日々の物事に立ち止まり、正しいことなのか考える子どもや教職員が増えたと思う」の感想が寄せられました。

## 合格する筆答試験対策

5月



教採突破講座①を4月29日に行い受講生10人が参加しました。今年度、最初の教採突破講座は「合格する筆答試験対策」をテーマに臨時教職員として働きたがら、どのようにして採用試験の準備を

して、合格を勝ち取るのかを学習しました。学習会の講師は、7年間教採を受け続けて合格を勝ち取ったAさん。はじめに参加者からの意見を集め交流をしまして。昨年、取り組ん

だ試験対策を振り返り、今年はそのように取り組むかを交流。白板には受講生の意見がびっしりと書き込まれました。Aさんは受講生の意見を元に、筆記試験対策を説明。「筆記試験の学習は朝方

に「眠い時は無理をせず睡眠時間をしっかりと取る」「通勤電車の中でも学習時間を作る」など具体的な筆記対策方法をアドバイスしました。受講生からは「新しいことにチャレンジしていかないといけない」と思いました。Aさんなどの感想が寄せられました。大阪市教はみなさんの教採合格を応援しています。



全国水平社創立100周年記念講演会

大阪府・市、聞かれなくても「今、差別なんてないよ」と言う(府教委)、「教科書会社に民権連の声を伝える」(府教委)

「若手の授業 数値で評価」の新聞報道で、「若い教員は萎縮」「授業を研究させる暇も与えない。満足に研究できなかった授業で日々を凌いでいる若手は低評価を受けて自信を無くす」などのオンラインコメントが多数寄せられ大問題となりました。

「学力向上支援チーム事業」が進めら

大阪府立大学名誉教授・部落問題研究所理事の広川禎秀さんが講演。部落問題とは近代日本社会に残存した前近代的社会関係、身分的諸関係の残滓の問題である。保守勢力の策動

により解放同盟問題が政治問題となり、その矛先は革新自治体つばしに向けられた。日本の人権宣言―日本国憲法を得て日本の民衆は「市民」として成長して

は存在しない(大阪府・市)、聞かれなくても「今、差別なんてないよ」と言う(府教委)、「教科書会社に民権連の声を伝える」(府教委)

「若手の授業 数値で評価」の新聞報道で、「若い教員は萎縮」「授業を研究させる暇も与えない。満足に研究できなかった授業で日々を凌いでいる若手は低評価を受けて自信を無くす」などのオンラインコメントが多数寄せられ大問題となりました。

「学力向上支援チーム事業」が進めら

全国水平社創立100周年記念講演会が4月10日に行われ80人が参加しました。大阪教文センター「部落問題解決と教育」研究会等が主催。

大阪府立大学名誉教授・部落問題研究所理事の広川禎秀さんが講演。部落問題とは近代日本社会に残存した前近代的社会関係、身分的諸関係の残滓の問題である。保守勢力の策動

により解放同盟問題が政治問題となり、その矛先は革新自治体つばしに向けられた。日本の人権宣言―日本国憲法を得て日本の民衆は「市民」として成長して

は存在しない(大阪府・市)、聞かれなくても「今、差別なんてないよ」と言う(府教委)、「教科書会社に民権連の声を伝える」(府教委)

「若手の授業 数値で評価」の新聞報道で、「若い教員は萎縮」「授業を研究させる暇も与えない。満足に研究できなかった授業で日々を凌いでいる若手は低評価を受けて自信を無くす」などのオンラインコメントが多数寄せられ大問題となりました。

## 全国水平社 100周年 最終局面に入った 部落問題解決の到達点

部落差別の解消の推進に関する法律が2016年施行されましたが、附帯決議に「過去の民間運動団体の行き過ぎた言動等、部落差別の解消を阻害していた要因を踏まえ」とあることも紹介されました。

### たんぽぽ だより 5月

今年度もコロナで大変ですが、日の仕事は大変な面もありますが、皆様いかがでしょうか。私の勤務校では今年度は遠足や土曜授業がありません。毎日楽しく返って行くのを仕事をしている自分自身「嬉しい」を感じます。私は、今年度は3年生の学級担任をしています。毎日楽しく返って行くのを仕事をしている自分自身「嬉しい」を感じます。私は、今年度は3年生の学級担任をしています。

「チャレンジ精神が大切」ということを常に言っています。3年生にもなると、間違いや失敗に対する不安や恥ずかしさから、意見の発表に消極的になりがちです。でも、「発表にチャレンジする気持ち」が嬉しく、自分自身「嬉しい」と繰り返して伝えると、道徳の授業でどんどん子どもたちが大きくなっていくように感じています。

また、対象教員に対して「実践的指導助言を行うことにより、教員の授業力向上を支援」としていますが、そのことにより、新たな評価制度ではないことを確認しています。

「本事業の効果検証」



### 教採突破講座

② 6月18日(土)  
③ 7月31日(日)

### 専門部総会

事務 6月11日(土)  
青年 6月18日(土)  
女性 6月25日(土)

アネックスパル法円坂